

菊池短歌会

5月詠草

若竹の間縫いゆく忍冬すいかづら花の神輿みこしがゆきゆき白し
山下 菊代
紅梅にレンズを向くるカメラマンと共に見上ぐる
空も春色 山代 静子
音色持つ風が揚がりぬ碧空に鳥の型して風に逆ら
ふ 佐々木かつえ
篋たかごに陽のむくき午後いぬ枇杷びわの紫の実はきみに
怒留湯健蓉
初夏の風の動きにたをたと若竹自在の揺れ見す
るなり 岩木 妙子
孫が乗りし飛行機の尾灯明滅し星空のなか遂に紛
るる 中川 愛子
ふる里の極まる桜命得し友と声弾ませて受話器を
置けず 岩永 典子
「ああ嬉し」駿河の香り届きたり緑の下に新茶を
かぐも 余話やす子
濁流の井手の中州の黄水仙その黄なる色あたりを
照らす 古賀 勝士

万句の里俳句会

5月句会

満開になりても模糊もこと花樗はなわらう
北村 妙子
山霊の供華とも捧ぐ朴の花
平山 邦子
薫風や子等の歓声ホームラン
宮本 雅子
菖蒲湯に浸りて昔話かな
林 まつ子
風の中静かに崩れ大牡丹
富田 幸子
麗かや卒寿の祝ひ薄茶席
茨木 幸子
雨上がり楠の若葉の匂ひ立つ
緒方 玲
花水木雨の暗さを弾きけり
松永 久子
松蟬のその一瞬を風攫さらふ
中路 郁子
それぞれの個性煌めく山若葉
高木 陽子
隣人の如くに庭へ初蛩
鋤本 トミ
谷深き瀬音にひろふ初河鹿
田中ひさ子

肥後狂句桜会

5月例会

強かねえオールジャパンは世界一
小川 繁美
騙されち男不信になつとらす
荒木 玄海
今が峠ここで勇退しとこうか
藤野 清子
大器晩成やがて花咲くときが来る
須藤 新生
空回り燃ゆる思いが伝わらん
窪田 明德
今が峠回診も院長のさす
太田 雄三
騙されて白紙委任が命とり
田中 孝幸
うるたえて消火頼うだ警察署
高倉 新米

泗水短歌会

5月詠草

大器晩成 下積みも無駄じゃなかった 光堀 善教
空回りとおも投打の嘯みあわん 安武 二山
大器晩成 還暦すぎて時の人 狩野 本六
今が峠 老後の為にふんばらにや 中山 晶子
夫つまの手の温み伝わるを幸とすも想いは縮みふかま
る晩春 長尾はるみ
みずみずの高菜を切りて干す土手に芽吹きし露が
春陽を反す 高藤タツノ
芍薬の花咲き盛る庭隅に朝ひと時を佇ちつくしお
り 中山 定子
長男は第二の職場を図書館に決めたと電話の声の
明るき 平嶋きくえ
誕生日の花サクラ草の花言葉「希望・青春」杏とよく
年つむ 古田のぶ子
花好きの家人が咲かす春の花小さき楽園いま咲き
揃う 増田久美子
野仏くたなは紅の牡丹頂かれ若葉雨降る田の畦に在り
吉安 永子
緋牡丹の庭に十三輪咲き揃い光をまとい朝風に揺
る 内田つね代
黄砂降る濁りし空に影見えず鳴ける雲雀のそぼろ
声降る 大島 きと

せせらぎ俳句会

5月例会

たんぽぽの綿毛何処いずこに根づくやら 寺本 和子
更衣白一色のバスの客 服部 静子
咲きこぼる五月雨萩に久女恋ふ 内村 鈴子
赤子抱くやうに筍貫ひけり 藤本 邦治
戴おきし上がり苺と初西瓜 五丁 義昭
標葉めがねの役を終えたる落葉かな 内村 泊虹
鉄線の山雨に咲けり濃紫 村山 数恵
藤咲けば疎まれ藤と夫嘆く 藤本アツ子
なんじゃもんじゃの花の盛りを一人占め 坂本まつえ
鯉職空は大きな海みたい (中一) 渡辺 一史
鯉職風が止んだらぐつたりと (中二) 渡辺 大寿

ほんなこつやつと分かった親の恩
江 彩
なさけなな 離縁されたち泣きよらす
美 樹
よりよつて欠陥住宅きやあ買うた
千 笑
不調法さ柿むかせたりや無うなつた
好 茶

七城短歌会

5月詠草

轟音とどろをふり撒き九機のへり過ぐる基地住民の怒り
吉間 充子
腰伸ばぬ吾の傍かたに飼ひ猫が背伸ばしをするイナ
バウアーする 岩崎 照代
我が畑にゲリラがありて棘草とげぐさの芽生えし大群陣地
を構う 佐々 重弘
新緑の庭にハナミズキの清楚なる真白き花に誘わ
れ下り立つ 岩津 涼子
我が肩に止まりし蛩もろ手にて囲む娘が言う父の
化身かと 木下 陽子
重なる葉の下陰にさみどりの梅の玉実たまみに夕の日
届く 下川 つぎ
時も折り風起ちたればステックカー押しゆく我に
花びらが襲う 堀 甲子
椅子に凭れ特殊電子の治療受くいつしかうたた寝
誘われりたり 森 道子
ゆつたりと杖つき歩く金鱗湖畔風起ち桜花降りか
かる 岩崎 清継

旭志文芸俳句会

5月詠草

草萌ゆる狭田を縫ひて川流る 芹川のり子
花水木人呼ぶ如し紅の冴え 中山 栄子
海望む鉄幹の歌碑花吹雪 中尾ヨシコ
花冷えや部屋までとどく夕あかね 水谷 ミネ
おそ霜に耐え梅の実の豊かなり 東 芳子
雨上り土手の蕨の我を呼ぶ 出田みどり
果てしなき青空のもと竹の秋 芹川 蓉子
招魂祭海の藻屑と消え 郷 ミヤ子
大悲なる碑文字のもとに釈迦祭 岩根サチ子
リハビリの窓鳩七羽春うらら 工藤 房子
春暁や満月ぼかと娘の上に 岩根 良子

肥後狂句水笑会

5月例会

もう駄目ホタルの里に水の無ア
水 光
よりよつて結婚式に産気づき 左 党
よりよつて 医家より寺に嫁めらした 英 坊
なさけなな 老人会に誘われた 乗 仏
不調法さエプロンの紐縦結び 三 代
ほんなこつ 銭の要らんだ空気だけ 五 女
不調法さ茶の入れみちも知らっさん 美 由